



# 蛍舞の、こぶしの里。

<http://youtu.be/4HDqZZF5ZLg>

今年はいにく梅雨が早まり、例年よりも観賞できる日が少なかったですが、今年も多くのホタルが舞い、来場者の目と心にその光を焼き付けました。三芳の魅力のひとつ、豊かな自然、そして温かい心。6月1日に撮影したこの写真に写るホタルの光には、様々な想いが込められています。(この見開き写真全体をかざすと写真が動くARの世界をお楽しみいただけます)



YouTube

**工**業地帯が広がる竹間沢東。そこには小さな小川が流れています。その川沿いに歩いていくと、木が生い茂る里が姿を現します。

「こぶしの里」  
その里に毎年ホタルが舞います。その光に訪れる人は酔いしれ、特に初めてこぶしの里でホタル観賞をした人たちは驚嘆の声をあげます。「都心から身近な場所でホタルを見ることができると……」

なぜホタルを見ることができなのか。地元の竹間沢はたる育成会の皆さんが子どものころに目にした光景から、ホタル再生の物語は始まります。

竹間沢東地区は昭和30年代までは田園広がる地域で、稲作が行われていました。当時の子どもたちが初夏に目にしたもの。それはホタルの光です。夜空に舞うホタルの光は、外で元気よく遊ぶ子どもたちの心に深く焼きつきました。

しかし土地開発などによって、その光は徐々に消えていき、昭和40年代に入るとその光を見ることができなくなっていました。

子どもたちはやがて大人となり、心に焼きついたその光を今を生きる子どもたちに見せてあげたいと感じるようになりました。そこで地元の

有志が集まり「竹間沢ほたる育成会」を平成14年に立ち上げ、当時ホタルが舞っていた場所、現在のこぶしの里にホタルを再生しようと尽力しました。

時は流れ平成26年4月。こぶしの里に地元の竹間沢小学校の児童たちが集まりました。ホタルの幼虫をこぶしの里の沢に放流するために。そして紙コップに分けられた幼虫をそつと沢に放ちます。この場所で再び成長したホタルに逢う日を約束して。

そして6月1日。この写真を撮影した日。こぶしの里にたくさんホタルが舞いました。子どもたちは身を乗り出し、大人はホタルの幻想的な光に酔いしれました。

この光は、きつと育成会の皆さんが子どものころに見た光と同じもの。今、皆さんが、手に取り目にしてこのホタルの光。ふるさとを愛する地元の育成会の想い、子どもたちの想いを乗せて舞っています。

私たちの暮らす三芳町にはこんなに素敵な場所があります。今年観賞されなかつた人も、この写真で少しの時間、ホタルの舞いを楽しんでみてください。ふるさとに誇りを。子どもたちに素敵な思い出を。また来年もずっと、ずっと。■